



会報 第25号

●発行所●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
●編集●
同上編集委員会
●印刷所●
こだま印刷

今こそ心の教育を



同窓会長
菊地恒三郎

会員の皆様には、日頃から同窓会の諸活動に種々ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。早いもので、平成七年度に「真岡北陵高等学校」が誕生して六年目が終わろうとしています。

最近の後輩諸君の活躍はすばらしいものがあります。日本学校農業クラブ全国大会のプロジェクト発表A部門で見事に三年連続最優秀賞を獲得いたしました。また、射撃部の選手諸君もめきめき技術力が向上するとともに、精神的にも強くなり各種大会で良い成績を収めています。同窓会長としても母校の生徒諸君の活躍を大変嬉しく思います。今後も精進を重ね、真岡北陵高等学校の良き伝統を築いて下さい。

なればならないのでしようか。私は常々心の教育の根源は家庭教育にあると考えています。わが国は戦後高度経済成長により、国際化、少子・高齢化、情報化、そして価値観の多様化等が急速に進みました。その結果として、戦前の日本の良き伝統であった家族制度が崩壊してしまつたように思います。お祖父さん、お祖母さん、両親、子供達の三世代が一つ屋根の下で生活し、代々祖父母から孫まで躰教育が充実してまいりました。祖父父母からの教えの中で「悪いことはするな。御天道（おてんと）様が見ている」という言葉は今でも忘れられない。いつでも清い

心を持ち、責任ある行動をしなければならぬとの教えであります。「やつてはならない」ことは決して行動してはいけません。いつの時代でも不易の一つとして守って欲しいと願っています。

同窓会本役員の先輩方、事務局の先生方、また北陵高校の先生方には、日頃より暖かい御指導いただきまして厚く御礼申し上げます。今年度は、二千年度、ミレニアムという記念すべき年の卒業生を送るべく、大変喜ばしいことです。また、来年度は二十一世紀の幕開けとして未来に大きく前進するため、在校生をはじめ、OB・OGの方々におかれましては、今まで以上に活躍されることと思ひます。



青年部長
鶴見英樹
平成二年度卒

ところであります。ここで、平成十二年度同窓会青年部役員を紹介したいと思います。

部 長	鶴見英樹	平2卒
副 部 長	仁平正美	2
副 部 長	石坂志穂子	4
副 部 長	小宅信子	5
会計監事	石沢雅士	2
会計監事	水沼芳美	2
会計監事	高橋和史	4
常任委員長	齊藤和弘	2
常任委員長	増田 了	2
常任委員長	藤田勝典	2
常任委員長	岸井稔子	2
常任委員長	星野朋子	5
常任委員長	古谷実樹	5
書記	石井友美	元
書記	手塚和子	5
書記	矢口麻美	5
支部幹事	阿久津好春	2
支部幹事	小幡正義	2
支部幹事	東 裕之	2
支部幹事	菊池秀紀	3

生徒のすばらしい活躍



学校長
山口祐司

同窓生の皆様には常日頃から母校に対してご支援・ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。本年度は射撃部・農業クラブ・吹奏楽部等が関東大会・全国大会ですばらしい活躍をしております。本校PTAでは、体育及び文化活動の援助・クラブ活動の各種大会派遣費の助成等のため生徒活動後援会を組織しています。しかし、生徒達のすばらしい活躍で大会出場費が大幅に不足してしまいました。そこでPT

A役員会を開き協議した結果、生徒達が学校はもとより県・関東の代表として存分に活躍できるように支援することとし、PTA会員の皆様から臨時に生徒活動後援会費を納入していただきました。また、同窓会からも補助をお願いしたい旨、同窓会長さんにお話ししたところ、気持ちよく承諾いただきました。十月十二日開催された同窓会役員会でも全員の皆様から賛同を得ることができました。同窓生の皆様にも改

めて感謝しますとともに厚くお礼申し上げます。以下生徒達の主な活躍状況を紹介します。

(一)射撃部の各種大会

- 関東大会A男子団体優勝
- 全国大会A男子個人六十発競技優勝 (山崎 純)
- JOC大会B男子個人六十発競技優勝 (佐藤陽介)
- 国体A男子個人二十発競技優勝 (山崎 純)
- 国体A女子個人二十発競技七位 (菅野幸絵)
- 農業クラブ第五十一回全国大会入賞者
- プロジェクト発表A部門最優秀賞 (三年)

(二)吹奏楽部の各種大会

- 東関東マーチングフェスティバル銅賞
- 県吹奏楽コンクール (高校の部) 銀賞 (銀賞では第一位)

生徒達は同窓会・PTAの皆様の温かいご支援によりまして生き生きと活動しております。

最近、後輩のみなさんの活躍のおかげで、色々な所から「北陵高」という名前を耳にすることがあります。時代と共に、農業高校から北陵高校へと着実に伝統を引き継いでいるばかりでなく、新たに北陵高校としての伝統を築いてきていると思ひます。今後とも「北陵魂」を受け継いでくれることと期待しています。

さて、今年度の同窓会青年部事業につきまして、は、昨年度にも増して、新しいことに挑戦してまいりました。来年度も今年度以上に、内容を充実した事業を展開してまいりたいと役員一同、「北陵魂」で燃え続けていると

叙勲おめでとう

勲四等瑞宝章と私の半世紀



昭和十五年卒業
早乙女 俊 夫

昨年十一月六日県公館で勲章の伝達式があり、八日には皇居宮殿春秋の間で天皇陛下の拝謁を受けたことができました。陛下の温かいおことばで勲四等瑞宝章の重みを感じました。受賞は私が永らく社会公共のため尽力された功績によりとなっております。私は、昭和四十八年栃木県第十三号農業士に認定

を受け、基幹作物に水稲、玉葱、養豚の三本柱の複合経営で、当時としては着実な経営形態でありました。昭和五十年、地域からの推薦で宇都宮市議会議員に初当選以来、六期二十四年間連続上位当選を果し、平成元年には副議長、平成七年には第五十七代の宇都宮市議会議長に就任、栃木県市議会議長会長、全国競輪主催地議長会会長に就任、競輪の推移と地方財政の現状など全国各地を精力的に見聞してまいりました。農業しか知らなかった私が地方財政、政治のバランス感覚と仕組、自由経済の伸展と歪み、国際化時代等々いろいろな現場でさまざまな体験ができましたことは、私にとって終生忘れることのできない思い出であります。

新農業士誕生

過去から未来へ



昭和四十三年卒業
柳 芳 伸

この度、平成十一年度栃木県農業士に認定されて早や一年、各種の研修や会議等を経てその重大さを改めて認識することとなりました。

振り返れば昭和四十四年に真農を卒業して以来、三十年余りが経過しました。農業が曲り角に來たと言われ、米の減反が始まった年でもありません。当時、我家では、たばこと米の専業農家でしたが、あり余る労力のために、一年の半分以上

は他産業のアルバイトに精を出していました。たばこと米では親の後ろをついてゆくだけでおもしろみがないこともアルバイトに拍車をかけたわけですね。そんな中、ある建設現場での休憩の時でした。初老の土方のおじさんが、「俺は幾らかでも土地があれば百姓をやりたい。人になんか使われたくないよ。土地さえあれば」と吐き捨てるように言ったのです。この国府田厚志さんのもとに

した。今、私は客観的にみて二十一世紀に向けての重要な施策は第一に地方分権であります。二十世紀は特に戦後アメリカの指導で民主化が進みましたが、中央集権の時代でもありました。全国三千二百の地方自治体が東京に行つて中央官庁に頭を下げて補助金の要請をしたものであります。時代の流れは変わり自分達の発想で二十一世紀は地方の時代と位置付け、財源の確保と市民本意に適正に支出することが主権在民であり市民参加のまちづくりができると思うので

次に貿易の自由化による食糧自給率の低下である

一年間お世話になりました。その年の秋には我家でも十アールのロックウールを始めました。又、生活環境の改善を目指して、妻、長男、私の三者による家族経営協定を結んで、みんなのやる気を引き出しています。たばこ作は平成十一年で終了、今は専業（四十アール）となりました。

平成不況も早や十年、どんな転職もきびしい時代ですが農業には食料を作るという最も尊い使命があります。絶対になくなりません。創意と工夫と努力を怠ることなく地域の仲間達と共に、未来に夢をつなげていきたいと思っています。それこそが私の農業士としての使命と思うからです。

祝町議会議員当選

北陵こそ私の出発点



昭和二十六年卒業
小池 明 善

この度、同窓会報「北陵」と共に原稿依頼の封筒を手にし、私はいつの間にか遥か遠い五十年前の真岡農業高校での日々を思い出しています。近頃はめっきり忘れた頃のことです。農家が、あの頃のことは私にとって宝物の様なもので、大切に記憶されています。

農家の跡継ぎは農学校というところで入学しました。農家の跡継ぎは農学校というところで入学しました。農家の跡継ぎは農学校というところで入学しました。農家の跡継ぎは農学校というところで入学しました。

学校は明るく伸び伸びとしていました。生徒会、農業クラブなど役員は立候補制になっていて、その時期が来ると候補者と応援者が幾く組も出て、教室では個人演説会、講堂では候補者が勢揃いして立ち会い演説会を行いました。私も応援演説をやりましたが内容はともかく、みんな颯爽と熱弁を奮ったものです。農業クラブはまだ出来たばかりでしたが、木造の体育館で盛大に研究発表会をやりました。会報「北陵」によりまして、あの時の農業クラブが素晴らしい姿に成長し、全国大会二年連続農業クラブ最優秀賞との記事を見ました。本当におめでとうござい

「俺らは、授業料払いながら百姓仕事に來ているのではない」とクラス全員で改革を迫ったこともあり、三年間は短く焦っていたのでしよう。しかし、実際は親の（母校の）こころ子知らずで、みんな切磋琢磨し、将来に向かって大きく育つ芽を抱えて卒業したので

私は、農業をしながら、何時も何かの問題に向き合っていました。それが難問題ほど闘志が湧く、そんな自分の生きざまは地域の世話焼きでありました。その積み重ねが過ぎて町の議員になってしまいました。今、私は議会の仕事と、土地改良区の統合整理（十五年目標）の仕事をしています。おわりに同窓会の皆様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

女性農業士になって



昭和四十四年度卒業
猪野 正 子

栃木県では、平成十年より女性農業士制度が出来、私も平成十一年度認定されました。女性農業士の任務として、

- (1) 栃木県女性ビジョンの推進
- (2) 農村女性組織の育成
- (3) 地域農業の振興や農村地域活性化の推進
- (4) 豊かで生きがいのある農業生活の実践と普及

私は、昭和四十五年三月本校を卒業し、事務職として勤め、二宮町公民館でサークル活動や青年団で一緒だった同級生の夫と結婚を機に農業者の仲間入りとなりました。尊徳ゆかりの地元は、二宮町いちごの発祥地として昭和三十年代、両親達は、新たな作物導入の

ため四苦八苦したそうでした。夫もいちご作り二代目として、力を入れ、私も、子育てをしながら少しずつ仕事にも慣れ、集落の仲間と若妻会を作り組織とのつながりも、出来ました。これがきっかけとなり、JA女性会の町、県、全国の役員も経験させていただきました。又、自主的に学ぶ場所への参加や、日本食糧機関（FAO）のパネラーや、全国各地より、講演依頼等、「なぜ私が？」と思うような場からも話があるのです。それだけの場所での人々との出

逢いが私の元気の源になっております。

現在、我家では、いちご、米麦、大豆の複合経営で、作業分散を図っています。職業としての農業の部分と、消費者や、次世代を担う子供達に、地域の文化や伝統、そして本物の味や心を伝える場としても開放しています。物を育てる喜びや苦勞を体験することによって、命の大切さを、感じ、つとめてほしいのです。

二十一世紀「食と農と命」がキーワード、お互いの生き方を尊重し、農業が主役となれ、「農業者で良かった」と思える仲間が一人でも多くなればと思います。

最後に、女性農業士として未熟ですが、先輩方と力を合わせ、積極的に行動し、農村との関わりの中から、関係機関との連携をとりながら、自分自身も学ぶ事を忘れず進めていきたいと思っております。そして、家族の絆を大切に、地域と共に生きる農業者でありたいと願っております。

「今日あるを感謝し
最善をつくす」
校訓を心に!!

町会議員と職業教育



昭和三十二年卒業
黒川 英代

同窓生の皆様には、卒業以来、今日までお世話になり続けておりまして感謝にたえません。

私は、当時の真岡農業高等学校上三川分校（定時制）を卒業しました。入学当時は、終戦から十年も経過していない時期であり、戦後の混乱を引きずる中で、高校に進学する者は少数でした。自宅の農業を手伝いながら

でも、高校に進学させてもらったことは、感謝すべきことと思っております。

高校卒業以来、地元の南河内町で農業に従事しつつ、土地改良区理事長や町議会議員などを歴任して参りました。

最近の十年は、南河内町でも、急速に都市化が進み、私が住んでいる地区も、純農村から新旧の人々が混住する都市近郊地域へ変貌しつつあります。このようなか中で、農業を守ると同時に、調和のとれた都市化が重要な課題になっていきます。農村から都市への急激な変化は、環境問題、老人福祉、IT整備の問題など、農業者福祉・地場産業の振興などの職務を実行し問題解決して行くにあたり、高校時代に授けられた知識は、その前提となるものであり、大変に役に立ちました。

そこで、思い浮かぶのは我が母校が真岡北陵高校として再出発し、学科も農業系の三学科に加えビジネス会計や情報処理それに教養福祉にまで広がっていることです。これらを学ぶことは、都市近郊で課題となってくる農業問題・福祉問題・情報弱者などの問題に対応することにつながり、現代社会のバランスの取れた発展には欠かせないものです。

在校生の皆さんには、誇りを持って、これらの経験をしたように感じ入る。成長の真只中の時代であった。卒業後、農業の傍ら民間のサービス業へ勤務した。

この間、多くの多岐に渡る社会勉強も、様々な考えと色々な人々との出会いがあった。勿論、在学中の三年間も多種・多様な教師、そして、友人と共に青春を謳歌し、学び・遊び・経験してきた訳であるが、取り分け生徒会・農学クラブを中心としたアフタースクールは楽しかった。

なかでも、文芸部・演劇同好会・図書館等々の活動は、特に印象に残っている。

因に、今思うに「青春とは、これだ」と高校生活の三年間を懐かしく振り返る。我、農業高校生として、最高の経験・人・家よりも外と言った

私、本校を昭和四十二年に卒業しました。卒業後は、両親と三人で、米、ナス、プリンスメロン、ニラを、作付していましたが、当時は、ただ手伝いをしていればよいといった甘い気持ちで、日々を過ごしていました。

昭和・平成そして二十一世紀



昭和四十二年卒業
山本 辰夫

平成十二年一月、（一期四年の議会活動が無事に務めさせて頂き）再選後の初議会で委員各位の信任を頂き、文教常任委員長を預かる。二期目の委員長は稀であり大変光栄である。同時に種々の委員となる。

因みに文教関係では、社会教育委員・公民館運営審議会副委員長を含め数委員会に属す。更に行政改革懇談会委員等数委員。年間一・二度の会議のものを含めると十数種に及び忙しい毎日である。

性分のせいか、私は生来忙しい事は嫌いでは無

い方であるが、一日に三度の会議、三種の委員会・審議会、そして、あまつさえ多い仕事のなかボランティアで続けている消防団関係の事業・会議等が入ると、一日に四・五回の出席という日もあり、正しくこんな時は多少進退極まる思いである。

そんな、こんなで早くも一年になる。（以上が現在の私の身辺である。）さて、母校の同窓会報誌発行の寄稿にあたり、古き良き高校生時代を振り返ってみよう。

私の真岡農業高等学校卒業は、四十二年（昭和）

和四十二年三月）の高度成長の真只中の時代であった。卒業後、農業の傍ら民間のサービス業へ勤務した。

この間、多くの多岐に渡る社会勉強も、様々な考えと色々な人々との出会いがあった。勿論、在学中の三年間も多種・多様な教師、そして、友人と共に青春を謳歌し、学び・遊び・経験してきた訳であるが、取り分け生徒会・農学クラブを中心としたアフタースクールは楽しかった。

なかでも、文芸部・演劇同好会・図書館等々の活動は、特に印象に残っている。

因に、今思うに「青春とは、これだ」と高校生活の三年間を懐かしく振り返る。我、農業高校生として、最高の経験・人・家よりも外と言った

優良農家紹介

我が家の農業



昭和四十二年卒業
伊沢 保

私は本校を昭和四十二年に卒業しました。卒業後は、両親と三人で、米、ナス、プリンスメロン、ニラを、作付していましたが、当時は、ただ手伝いをしていればよいといった甘い気持ちで、日々を過ごしていました。

た。しかし四十七年に結婚、その一年後に父の急死、と私の責任が重くなりました。今までのような手伝いではなく、私が中心になり、農業を営まなければなりません。プレッシャーや不安もありましたが、「やるしかない!!」と思い、その後は、米とメロン栽培に力を入

てきました。しかし相手が作物だけに苦労は多く、特に連作障害や、水

田減反問題等には、頭を悩ませていました。ところが昨年それまでの私の悩みを、解決してくれる水耕栽培というものを、知りました。もちろん多大な資本を投資しましたが、年令五十才にして、ゼロからのスタートという面に関しては、迷いもありました。しかし、作業環境の改善面や、労力の軽減、今までの私の耕栽培はとても魅力的で、残りの農業人生をかけてみようと思心しました。JAはが野、県農業振興事務所経営普及所、市農政課の方々の御指導を受け、中村地区・六名の仲間とともに、ナスのロックウール栽培を始めました。今年で二年目になりますが、ナス栽培は難しいものがあります。今後、増々仲間との交流を図り、一つ一つの技術の向上に務め、自信の持てる安定した経営をして行きたいと思っています。

『精出せば、凍る間もなし水車、嫁ぐに追つ着く貧乏なし。』先人の金言であります。

昭和四十八年に、真岡農業高校を卒業後、清原高等園芸研修所で一年三ヶ月の研修。そして就職。専業農家の長男だから何となく農民となり、母の町二宮だから、何となく母を作り、生活が成り立つてそれで良い。

ところが、中に入ればそれはそれ、自然と開く農業の深遠さ。無限の可能性を見せる作物栽培の妙。おもしろいのである。

現在、農業を取り巻く社会状況は、年々厳しいものがあります。慢性化した不景気、異常気象、減反、農産物輸入自由化、数えたら切りがありません。かと言って、大学一年生の娘と、高校一年生の息子を持つ身としては、手を拱いているわけにもいきません。経営の見直し、労働の合理化、規模拡大、投下資本の有効利用、高効率化等々。農業の明るい未来が、必ず来ることを願うながら、一歩でも前進したいと思ひます。青春を過ぎ、朱夏を向へ、やがて白秋、玄冬。これからの二十五年、一億三千万の食を賄う農民の一人として、勇氣と熱意を持って生きていきたいと思います。冒頭の金言は、一農民としての座右の銘です。この度の優良農家表彰ありがとうございます。最後に、我学舎よ、永遠なれ、我闘魂よ、不滅なれ。

楽しい農業



昭和四十四年度卒業
石塚 輝一

私は昭和四十四年度に、本校を卒業しました。当時の、専業栽培は露地からハウス栽培に変わろうとしていた時でした。私も卒業と同時にビニールハウス十アールを建て、水稲と専業栽培を始めました。その当時は、現在の

ように土地改良が行われておらず専業を営むのも大変でした。その後、土地改良が行われて、広い水田に変わって、道路も広くなり軽トラでハウスに行けるようになりました。現在は子供達も社会に巣立って行きました。

たので、妻と二人で水稲と専二十五アールを栽培しています。本年度から全部とちとめを作っています。栽培の難しい品種なのでこれから栽培技術を確立して収量アップをしていきたいと思っています。努力すれば、するほど報われるのが農業だと思ひますので、これから妻と二人で健康に気をつけながら楽しい農業を目指してがんばりたいと思っています。

最後に、我学舎よ、永遠なれ、我闘魂よ、不滅なれ。

優良農家紹介

夢とゆとりを目指して



昭和五十年卒業
小柳 勝 衛

私が本校を卒業して、早二十四年の月日が経ぎあつたという間でした。我が家の経営内容は、水稲を主としてそこに苺を取り入れた経営でしたが、米の自由化価格の低迷などのため、苺が主に変わらざるをえませんでした。現在は、苺三十アール、水稲が三ヘクタール家族四人での経営です。苺は百パーセントとちおとめに切り替え、その内四年前から十三アールをロックウールによる高設ベンチを取り入れ労働の軽減を図ってきました。

た。経費、収量などの問題などは、重労働から比べれば今は導入して良かったと思います。又、今年パイプハウスの老朽化、両親の年齢、パートの導入を見据えて農協のリース事業による全自動ハウスを導入し、肉体的、精神的にも余裕の持てる経営になりました。

五年前に、ヨーロッパの農業視察するチャンスにいただき、オランダ、フランス、イタリアなどを見て、ショックを受けての帰国となりました。

それは、文化の違いは上毎日でした。私にも、中学生の長男がおりますが経営を継いでくれるかどうかはわかりませんが、とかく苺栽培は、手間がかかる作物です。これからの青年が

将来に向けて



昭和五十一年卒業
金子 光明

私は、昭和五十一年度卒業し、真岡農業高校を卒業し、栃木県農業短期大学校で二年間学んだ後、一年間アメリカで研修を行い、帰国後就職しました。それから二十数年が過ぎ、苺の栽培方法、品種も変わりました。単棟ハウスの平べったから、ウォーターカーテンへと変わり、今年度から補助事業により、連棟ハウスを

建て、面積も二十三アールへと増加しました。品種も、ダナー→宝交早生→麗紅→女峰、そして、三年前から、ちおとめへと変わりました。次年度からは、クリプトによるベンチ栽培を取り入れる予定です。まだまだ、栽培技術もままなりません、これからも頑張っていきたいと思ひます。

それは、文化の違いは上毎日でした。私にも、中学生の長男がおりますが経営を継いでくれるかどうかはわかりませんが、とかく苺栽培は、手間がかかる作物です。これからの青年が

菊地同窓会長

第三回内藤寿七郎

国際育児賞希望大賞を受章

菊地同窓会長さんは、平成十二年十一月、温かい心を育てる運動本部主催の「第三回内藤寿七郎国際育児賞希望大賞」を受賞されました。この賞は、育児や教育、医療の各分野で地道な活動を行っている個人、団体に贈られるもので、今回は、

菊地同窓会長さんのおかれましては、真岡市長に就任以来十九年間、一貫して「心の教育の重要性」を訴え、平成九年には、「温かい心を育てる三つ子の魂事業」に着手

され、青少年の健全育成に尽力されてきております。今回の受賞は、このような功績が、国際的に認められたものと、心よりそのご苦労に敬意を表しますとともに祝ひ申し上げます。

菊地同窓会長さんのおかれましては、真岡市長に就任以来十九年間、一貫して「心の教育の重要性」を訴え、平成九年には、「温かい心を育てる三つ子の魂事業」に着手

歴代同窓会長との雑感

昭和二十年卒業
常任理事

井 野 博

私が本校同窓会にかかわり始めたのは、昭和二十八年四月の総会からでした。初代会長の小林初市郎氏は好兄弟で、小柄な風格は、今でも親しみ

深い印象が残っています。間もなく菊地幸作先生が県庁の役職から離れて真岡町長から、合併真岡市長に選ばれて勢いに乗った目会長に就任されました。と同時に田上昇氏と上野千重郎氏、荒井英雄氏らが調和のとれたかたちで選ばれました。その総会の席上、私は青年部を代表して正副会長の指名に賛成の意見を述べたなど、良くも遠慮せずに申し上げた事を回顧しております。

そして創立五十周年（昭和33）創立六十周年（昭和42）を温厚篤実な

人格者の菊地幸作先生が、創立七十周年（昭和52）は個性が豊かで強い人柄の田上昇先生が、創立八十周年（昭和62）には農協人として大きく輝いた、大倉一郎先生、そして創立九十周年は、かつて本物の先生であつて妙に魅力的な人柄の菊地恒三郎先生により、それぞれの会長が存分に、その持ち味を活かして盛大な式典と有意義な記念事業の実施にあたり、立派にご指導をなされまして、顧みれば私もこれらの歴代会長の偉人・君子とも言えるお人柄と人情に親しく接して来られ

た経過は、私の人生に「味の素」の効果をもたらした本当に有難く感謝の念で一杯であります。これまでの学校と同窓会の歴史を、この目と心でつぶさに見て来ました。その上に学校からの恩恵と、学校に對し私の小さな協力の関係は、我が家の繁栄にお力添えを賜っております。

私は今から来るべき百周年を迎えるに際して、私自身が引き続いて健康運に恵まれて健康にその時の記念式典と記念事業に参画できるよう神にかけて念願致しておる次第です。

十一月三日の文化の日。私達、同窓会青年部は今世紀最後であり、県内最大のイベントである「第十七回全国都市緑花とちぎフェア・マロニエ

人権者の菊地幸作先生が、創立七十周年（昭和52）は個性が豊かで強い人柄の田上昇先生が、創立八十周年（昭和62）には農協人として大きく輝いた、大倉一郎先生、そして創立九十周年は、かつて本物の先生であつて妙に魅力的な人柄の菊地恒三郎先生により、それぞれの会長が存分に、その持ち味を活かして盛大な式典と有意義な記念事業の実施にあたり、立派にご指導をなされまして、顧みれば私もこれらの歴代会長の偉人・君子とも言えるお人柄と人情に親しく接して来られ

た経過は、私の人生に「味の素」の効果をもたらした本当に有難く感謝の念で一杯であります。これまでの学校と同窓会の歴史を、この目と心でつぶさに見て来ました。その上に学校からの恩恵と、学校に對し私の小さな協力の関係は、我が家の繁栄にお力添えを賜っております。

私は今から来るべき百周年を迎えるに際して、私自身が引き続いて健康運に恵まれて健康にその時の記念式典と記念事業に参画できるよう神にかけて念願致しておる次第です。

十一月三日の文化の日。私達、同窓会青年部は今世紀最後であり、県内最大のイベントである「第十七回全国都市緑花とちぎフェア・マロニエ

人権者の菊地幸作先生が、創立七十周年（昭和52）は個性が豊かで強い人柄の田上昇先生が、創立八十周年（昭和62）には農協人として大きく輝いた、大倉一郎先生、そして創立九十周年は、かつて本物の先生であつて妙に魅力的な人柄の菊地恒三郎先生により、それぞれの会長が存分に、その持ち味を活かして盛大な式典と有意義な記念事業の実施にあたり、立派にご指導をなされまして、顧みれば私もこれらの歴代会長の偉人・君子とも言えるお人柄と人情に親しく接して来られ

た経過は、私の人生に「味の素」の効果をもたらした本当に有難く感謝の念で一杯であります。これまでの学校と同窓会の歴史を、この目と心でつぶさに見て来ました。その上に学校からの恩恵と、学校に對し私の小さな協力の関係は、我が家の繁栄にお力添えを賜っております。

青年部活動報告

いかだ下りに参加して

同窓会青年部

水 沼 芳 美

同窓会青年部としては今年で三回目の参加となります。いかだ製作の方も、前回使用した材料を再利用したため、かなりの材料費をおさえたのに

もかわらず、夢のある物を作ることができました。梓組と発泡スチロールについては、前回の物を使用し、色を明るめの色であるエメラルドグリーンに塗り直したので、案に作れました。いかだの上部屋根については、前回は材木を使用した為、かなりの重さがあり、運

搬、搬入の時、時間がかり、慌ただしくなってしまうました。今年は、軽さとデザインについて、工夫しました。材木の代わりにあさがおのつるをからませる棒を使用しました。屋根には前回使用したよしはとでも重く長さもあり、とても扱いにくい物でしたので、今回は扱いやすくして、寒い使用しませんでした。

暑さを避けるための寒冷紗が、今回は小雨を避けることになってしまいました。

デザインは、いろいろな色の風せんをたくさん使い、いかだをカラフル

マロニエとちぎ緑花祭を

見学して

同窓会青年部副部長

石 坂 志穂子

十一月三日の文化の日。私達、同窓会青年部は今世紀最後であり、県内最大のイベントである「第十七回全国都市緑花とちぎフェア・マロニエ

とちぎ緑花祭二〇〇〇」の壬生会場を見学してきました。祝日ということもあって、会場にはかなりの人でごった返してました。

たわなに実ったリンゴ並木をぬけると栃の木や立体的な花飾りで彩られたメインストリートがあります。また、広い緩やかな斜面と地形を生かした十七万株の花々で秋の紅葉をイメージした夢花壇がありました。さらに栃木県の友好交流県である中国の浙江省、フラン



スのヴォークリューズ県、アメリカのインディアナ州の庭園など二十一世紀にふさわしい花と緑の街づくりの在り方を独自のテーマで楽しませてもらいました。この日の体験コーナーでは、栃木県特産の干びようを使つた「ジャンボのりまき」を作り、試食の出来るイベントや焼きいもを先着順で配っていたり、名産のいちごを使用したソフトクリームの販売なども行われていました。

このような全体で栃木の文化に触れ合うことが出来て本当に良かったと思ひました。緑や花というものは、当然のように身の周りにあるわけですが、この会場に来て、改めて近未来の人と緑と自然の関わり方について学べたと思ひます。

ご挨拶と報告



PTA会長

猪野 忠 秀

同窓会の皆様には常日頃よりPTAに対し、御支援、御協力を賜りまして、御礼申し上げます。

一昨年、昨年に続き、農業クラブ全国大会では、三年連続の優勝を勝ち取ることができました。全国大会でみごとに優勝しました。生徒たちの努力と先生方の心温まるご指導に対し心から御礼申し上げます。

三年連続農業クラブ全国大会最優勝に輝く

農業クラブ顧問 押久保 徹

今年度も、様々な活動を行いました。年間の農業クラブ活動をそれぞれの行事ごとに振り返ってみたいと思います。

一、農業クラブ説明会
四月十九日(水)、一年生を対象に本校旧体育館で農業クラブの活動について説明をしました。

鑑定競技会の説明では、農業科コース、農業機械科コース、食品科学科コースごとに問題を設定し、問題を生徒席前で提示しながら司会者が質問をして正解者には、記念品をプレゼントしました。また、意見発表の説明では、昨年の本校代表生徒による発表をしても良かった。次に、プロジェクト発表の模範演技を県大会代表になったクラブ員にしてみたい。

二、農業クラブ総会
五月六日(土)、農業科の全生徒を対象に体育館で農業クラブの総会を開きました。総会では、今年度の農業クラブの年間行事や予算・決算などについてクラブ員の皆さんに検討していただきました。

三、校内意見発表大会
五月二十日(土)、本校旧体育館にて校内意見発表大会を開催しました。発表大会を開催しました。この大会は、県大会の選手を決めるものであり、クラス選考後練習を行ってきたクラブ員も多く、今年はとても立派な発表が多くを占めました。各クラスから代表が一名ずつ参加したので、合計九名で大会を行いました。

今年度の成績は、A部門二年一組清水妙美さん、B部門一年二組黒崎勇志さん、C部門三年三組関健一さんの三人が県大会に進み、清水さん・関君が県大会で最優秀賞を受賞しました。

四、校内鑑定競技会
六月十四日(水)本校旧体育館で校内鑑定競技会を行いました。鑑定競技会は校内で一位の生徒が全国大会選手となるため、多くのクラブ員が競技会前より学習していたようでした。解答が数多くありました。さて、今年度は、農業科コースに三年一組の小林光子さん、農業機械科コースに二年二組の山形昌治さん、食品科学コースに三

日頃の努力が実を結び すばらしい成果を上げる農ク・部活動に拍手

年三組の黒田真彦さんが宮崎全国大会に参加しました。そして、山形昌治さんが入賞を果たすことができました。おめでとうございます。

五、農業情報処理競技
宮崎全国大会が行われ、三年一組の大塚一弘君が優秀賞を受賞しました。六、家畜審査競技会
公開種目として実施しましたが、二年一組の上野翼君が優秀賞を受賞しました。

七、栃木県大会
平成十二年六月二十三日(金)栃木市民会館を会場にプロジェクト発表

県大会、意見発表県大会が同時に行われました。今回は、A部門「農業の経営や流通に関すること」に十一名、B部門「産業人としての生き方に関すること」に七名、C部門「地域の文化や生活に関すること」に十一名の参加がありました。

A部門三年一組宮崎隆之、陽子さん他十一名、B部門三年一組嶋嶋樹さん他六名、C部門三年一組上野学さん他十名が出場し、A・C部門が県大会で最優秀賞となり関東大会でも最優秀賞に輝きました。そして、宮崎

私は、十月二十四日から二十五日に宮崎県で行われた第五十一回日本学校農業クラブ全国大会の農業情報処理競技に出場しました。この大会は、資料と例題を参考に表計算処理、グラフ作成と考察文書処理の入力問題、情報知識の筆記試験とに分けられています。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

全国大会に出場するためには、県大会、関東大会、

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

北陵プロジェクト三連覇達成 史上初の快挙

三年一組 宮崎 隆之

チゴで村おこしを(家協協定でゆとりあるイチゴづくりを目指した我が家の経営改善)という題を掲げて発表をしました。会場の客席には、人がいっぱいいて、それを見るときには、心臓がドキドキ、足や手はガタガタ震えていました。そして、結果発表を迎え、一緒に発表した仲間と公園で昼食をとってから、会場の方に向かいました。会場のロビーで結果の発表を待っているときも心臓が

チゴで村おこしを(家協協定でゆとりあるイチゴづくりを目指した我が家の経営改善)という題を掲げて発表をしました。会場の客席には、人がいっぱいいて、それを見るときには、心臓がドキドキ、足や手はガタガタ震えていました。そして、結果発表を迎え、一緒に発表した仲間と公園で昼食をとってから、会場の方に向かいました。会場のロビーで結果の発表を待っているときも心臓が

チゴで村おこしを(家協協定でゆとりあるイチゴづくりを目指した我が家の経営改善)という題を掲げて発表をしました。会場の客席には、人がいっぱいいて、それを見るときには、心臓がドキドキ、足や手はガタガタ震えていました。そして、結果発表を迎え、一緒に発表した仲間と公園で昼食をとってから、会場の方に向かいました。会場のロビーで結果の発表を待っているときも心臓が

チゴで村おこしを(家協協定でゆとりあるイチゴづくりを目指した我が家の経営改善)という題を掲げて発表をしました。会場の客席には、人がいっぱいいて、それを見るときには、心臓がドキドキ、足や手はガタガタ震えていました。そして、結果発表を迎え、一緒に発表した仲間と公園で昼食をとってから、会場の方に向かいました。会場のロビーで結果の発表を待っているときも心臓が

伝説は、脈々と続いていきます。これからも全国に誇れる発表をするよう努力したいと思っています。

農業クラブ全国大会に参加して

三年一組 大塚 一弘

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。

私は、昨年も全国大会に出場していましたが、昨年は無惨にも、努力にそぐわない、悔しい結果となりました。今年の大会は、昨年の繰り返しにならないよう自分自身に気合を入れて臨みました。



オランダ研修

オランダ派遣

農業研修に参加して

二年一組 上野 恵 美

私は平成十二年七月六日から約三週間オランダ派遣農業研修に参加しました。団員は県内の農業高校生十人と引率してくださった二名の先生方です。

出発する前日は不安であまり眠れず、そのままだ不安を抱えての出発となりました。しかし、オランダのスキポール空港で受け入れ代表のヤンさん夫妻が温かく迎えてくださったおかげで、少しづつ不安が消えていきました。空港からホテルに向かう途中のバスの中から外を見るとやはり酪農大国というだけあり、たくさん牛や羊を見ることができ感激してしまいました。次の日、フラワーオークションに行きました。そこでは花の競売が行われており、さまざまな種類の花が売買されていました。日本では見たことのない花や売値のさ

れ方を見てとても勉強になりました。その次の日からいよいよホームステイが始まりました。私がお世話になったリメルツ一家は私を温かく迎え入れてくれました。酪農家なので搾乳をさせていただきました。しかしうまくいかず大変でしたが、

この研修を通して、農業に対して誇りと自信が持てるようになりました。この経験を生かし、将来の農業経営者の一員として日本の農業を支えていきたいと思っています。最後に多くの人に出会え参加してよかったと思いました。



進路状況

進路指導部長 高瀬 捷夫

平成十二年度の経済は、生命保険会社やデパートの破たん等、依然として不透明な状況でした。

本校としては、新学科の第四期生の卒業の年であり、前年の実績を受け継ぎ、大いなる飛躍が期待された年でもありました。

しかし、景気回復の足取りは重く、前年同様に就職希望者にとっては厳しい年になりました。

反面、進学希望者にとっては、大学、短大、専修学校等の指定校の増加にもなっており推薦入試を希望していた生徒には入

りやすい年になりました。【進学について】

四年制大学には、東京農業大学、立正大学、九州大学、流通経済大学、敬愛大学、那須大学、国際情報短大（二名）、秋草学園短大、宇都宮短大（二名）、足利短大、作新短大、の各校に計十三名が合格をしました。

他には千葉大園芸別科（二名）、栃木県農業者大（二名）、栃木県農業者大（七名）が合格をしました。

専門学校には県内外の各分野にわたって計三十三名が合格しています。

昨年度と比較すると進学者の全体数は変わっていないが、四年制大学が増加し、短大も少し増加、専門学校への進学者が減少しております。

【就職について】

昨年は未曾有の就職難

平成12年度の進路状況（平成13年1月現在）

進学	学	大 学			短 大			そ の 他			未定進学	合計
		国立	私立	国大	私立	専修	訓練	別科	専門	施設		
今年度	男子	0	10	4	2	18	5	8	47			
	女子	0	3	9	0	15	2	8	37			
	小計	0	13		2	33	7					
昨年度	男子	0	4	4	1	19	5	8	41			
	女子	0	0	6	0	26	4	6	42			
	小計	4		10	1	45	9					

就職	そのほか	就 職			公務員	自営	在 家	就 職	合計
		管内	県内	県外					
今年度	男子	19	18	9	2	0	1	3	52
	女子	23	38	15	0	0	9	11	96
	小計	42	56	24	2	0	10	14	148
昨年度	男子	16	16	11	3	1	3	11	61
	女子	15	24	8	0	0	9	25	81
	小計	31	40	19	3	1	12	36	142

生徒会活動

平成十二年度生徒会活動報告

顧問 森 戸 滋

本年度で報告すべき事業は、以下の四つです。

（益子養護学校との交流）

例年お昼は、家庭科の先生の協力のもと、本校で全て準備してまいりました。しかし、今年は生徒自身が野外炊飯でカレーライスを作るスタイルに変更しました。お互いに協力して作るうち、すぐに仲良くなれたようです。食事をする頃には、すっかりうち解け、旧友のように語り合っていました。

（体育祭）

生徒自身の提案もあり、昨年まで行っていた

の生徒が福祉関係施設への就職内定が見られませんでした。

ただ、就職戦線の厳しさのため、各人の希望が生かされなかった場合もおきてしまいました。

また、昨年よりは少ない数であるが無業者がおります。

いづれにしても、まず大切なことは、「将来に

対する自分自身の進路意識であると思います。

来年度も厳しい状況は続くと思われます。しっかりと進路意識を

商業系学科では、今年

は事務系への就職内定者の増加が見られました。

教養福祉科では、多く

の生徒が福祉関係施設への就職内定が見られませんでした。

ただ、就職戦線の厳しさのため、各人の希望が生かされなかった場合もおきてしまいました。

また、昨年よりは少ない数であるが無業者がおります。

いづれにしても、まず大切なことは、「将来に

対する自分自身の進路意識であると思います。

来年度も厳しい状況は続くと思われます。しっかりと進路意識を

商業系学科では、今年

は事務系への就職内定者の増加が見られました。

一年間を振り返って

生徒会長 関 戸 健

生徒会長を務めていた間に、私は実に多くのことを学ぶことができました。それは、「調和を図ることの大切さ」、「信頼関係を築いていくことの難しさ」、そして「個人の責任の重さ」です。

最初に「調和を図ることの大切さ」ですが、組織として一つの仕事をや

っていくためには、絶対必要なことだと思ひます。一人でも好き勝手なことをしてしまうと、仕事

がスムーズに進んでいかないからです。

次に、「信頼関係を築いていくことの難しさ」

については、一つ一つの仕事を完璧に行うことで、克服していきま

した。その積み重ねで、他人からの信頼を得ていくのだと実感しました。

最後に「個人の責任の重さ」ですが、自分に与えられた職務について

は、責任を持って遂行するということです。人には誰でも大小にかかわらず、失敗の経験があるで

しょう。しかし、同じ失敗を繰り返すことはできません。このような信念で職務をこなしていったら、責任感を養うことができたと思います。

以上のように、生徒会活動で学んだ様々なことを今後の自分自身の生活に活かしていきたいと思ひます。そして、責任感があ



家庭クラブ活動

平成十二年度クラブ活動報告

顧問 高瀬 則子



家庭クラブ活動は、家庭科で学んだ知識や技術を生かして実践することから始まります。力を合わせて行動することによって、家庭や地域社会の改善、向上をめざしていきます。たとえば、あき缶について一人が「どうにかしたい」と考えたなら、それをクラスや学校全体で、そして地域社会の環境問題へと広がっていくのですね。身近な問題に目を向け、家庭クラブ役員が検討し、計画を立て、家庭科教員と連絡をとりながら活動しています。

家立会演説会
役員選挙
県連研究発表大会
(鹿沼) シンポジウム意見発表
十月 西真岡保育園交流会(芋ほり)
十一月 文化祭(ホームブルジョエクト展示)
十二月 家立意見発表会
一月 調理講習会
二月 家立役員研修会
このような活動が活発に実施できるよう段取りを考え、下準備をしつかりする過程で、家庭クラブ役員は、意識が高まり成長しているように思います。農場の先生方をはじめ学校、保育園など地域の方々の力強い協力があればこそ、有意義な活動が出来るのです。深く感謝しております。

九月 西真岡保育園交流会(梨がり)
八月 着つけ講習会
保育体験研修
ごみ処理場の見学
テーブルマナー講習会(真岡)
全国研究発表大会(福井県)
五月 家立紹介、総会
家庭クラブ週間
六月 調理講習会
リーダー養成講習会(鹿沼)
七月 着つけ講習会
保育体験研修
ごみ処理場の見学
テーブルマナー講習会(真岡)
全国研究発表大会(福井県)
九月 西真岡保育園交流会(梨がり)

特集

二十一世紀にはばたくわが校は今!

【設置の背景】

経済社会の変化、進路の多様化、生徒数の減少等に対応し、かつ、生徒が目的意識を持って入学してくるためには、個性的で特色ある教育を実現する必要性が生じてきました。そこで、とちぎ新時代創造計画や栃木県産業教育審議会の「産業経済の発展に対応した職業の在り方」についての答申を踏まえ、職業学科の総合化を図るとともに、芳賀地区の産業人育成の拠点校として、バランスのとれた職業教育を行い、地域に寄与できる学校に充実発展させることを目指して、平成七年に真岡北陵高等学校と校名を改称して新たなスタートを切りました。また、これまでの学科を再編し、新たに生物生産科、農業機械科、食品科学科、ビジネス会計科、情報処理科、教養福祉科の六学科を設置しました。



☆農業機械科

農業機械や自動車・建設機械等の点検整備や運転操作について学習するとともに、旋盤・フライス盤・溶接機などを使って、材料の加工方法についても学習します。



【各学科の特色】

☆生物生産科

農業生物の育成を通して、農業に関する基礎的知識・技術を身につけることができます。農業経

☆食品科学科

食品の加工・貯蔵・品質管理、食品としての価値や栄養。さらには食品の成分分析や検査、食品への微生物の利用、食



☆情報処理科

コンピュータ及びワープロに関する知識や操作技術を身につけることができます。さらにプログラミングの学習を通して、情報を合理的に処理



☆ビジネス会計科

簿記会計の授業を通して、経営活動に関する取引引きを正確に会計処理する能力を身につけることができます。さらに最新の情報機器を利用しての会計処理や事務処理、また商業経済全般についても学習します。



☆教養福祉科

福祉に関する知識や技術を学び、施設介護・在宅介護・保育実習などを通していろいろな人に接しながら実践的な体験学習ができます。若い時の感動は豊かな心と意欲を育て、二十一世紀の社会を生きる礎を作ります。



【新たな体験教育】

☆アクションプラン

学校の活性化と地域に開かれた学校づくりのために、学校の敷地内に交



【施設・設備の充実】

学科再編による商業教育・福祉教育の充実・発展のために商業・福祉棟が建設されました。

福祉関係の施設として、ベッド等の看護設備を完備した看護実習室や介護実習室、特殊浴槽を設置した入浴実習室があります。



☆商業関係の施設として

商業の一連の取引を実習する総合実践室、情報処理に関して実習をする情報応用室やコンピュ

計 報

四代会長大倉一郎先生が一月二十日八十八才の天寿をもって逝去されました。先生は明治四十五年二月の生れで、本校の第十九回の卒業でした。

太平洋戦争中は中国大陸を転戦して、終戦により無事帰国されました。

旧七井村農協組合長に就任されて以来その人となりが認められ、県農協経済連合会長にも選ばれて、約四十年間の永きに亘り農協運動の指導者として活躍をされました。

同窓会では副会長(六年) 会長(四年)として貢献をなされ、創立八十周年の記念事業には、特段のご尽力をいただきました。

茲にこれまでのご功績とご苦勞に感謝と敬意を表して、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

平成十三年そして新世紀二〇〇一年を迎えられた由、真におめでたいかぎりです。同窓会報の編集は年一回実施しているところですが、委員各位のご丹精に心から感謝を致しております。これからも同窓会が学校と共に生きている証として残せるように、気持ちを新たにして頑張りたいと思っております。



この他に、体育の授業の充実のために、平成九年度に第二体育館が建設されました。



編集委員長 井野 博